

令和4年度 道徳科経営について

1 本校道徳科のねらい

- 物事を多面的・多角的に考え、仲間と価値観を磨き合うことができるようにすること。
- 発達段階に合わせて、道徳的諸価値の理解を進めていくようにすること。
- よりよい生き方を追い求めていこうとする態度を養うことができるようにすること。

2 目指す子ども像

道徳科は、自己の生き方についての考えを深めることを目的とする教科である。異なる環境で育ってきた子どもたちが、それぞれの価値観を基に思いや考えを伝え合う道徳科の場は、多様性に目を向けながら、自己の生き方を見つめ直すことができる絶好の機会なのである。

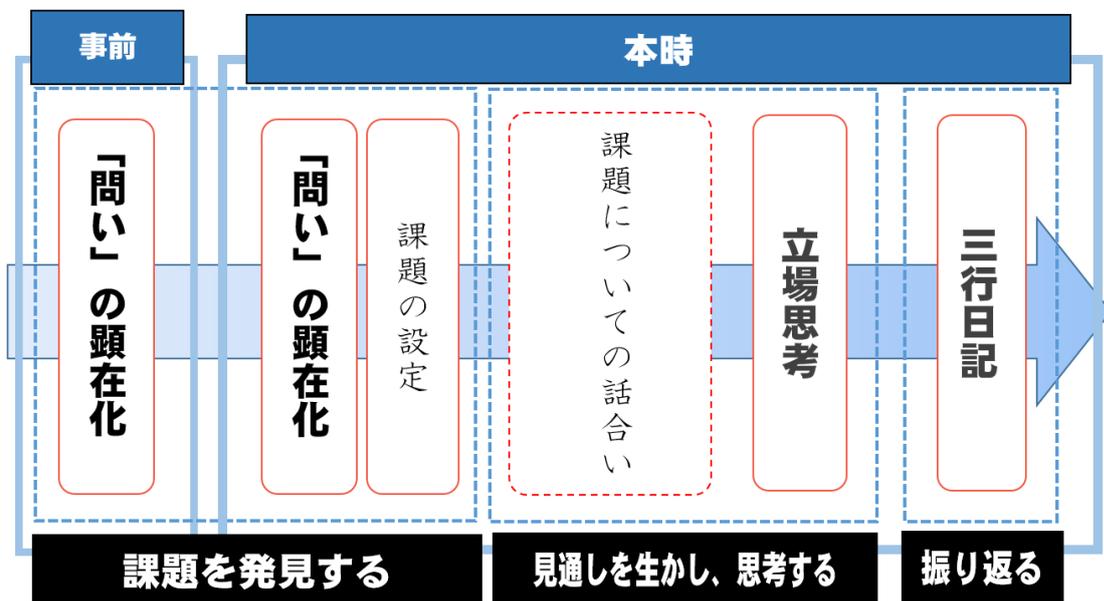
そんな多様性が認められつつある現代だからこそ、目の前の人がどんな思いを抱いているのか、心を見つめ、相手の気持ちを想像し、歩み寄ることが今まで以上に大切であると考えている。相手の立場に立ち、思いや生き方に「共感」することで、いかなる違いも認め合い、さらに幸せを広げていくことができるのではないだろうか。

多様性を拒絶するのではなく、様々な立場の人々の思いに自分自身の思いを馳せたり、自分ではない人の立場に立って物事を見たりする経験を重ねることで、共感する力を高めることができる。そして、共感する力を高めることができれば、自他の幸せな生き方を模索し、よりよい生き方を求めていくことに繋がると考える。

以上のことから、本校道徳部が目指す子ども像を次のように設定する。

多様な生き方に共感する子どもの育成

3 学習過程



4 方策

(1) 「問い」の顕在化

「問い」とは、子どもたちが考えたい疑問や解決したい疑問のことである。日常場面や教科書教材と出会った子どもたちが、自ら「問い」を立て、本時の学習課題として設定する。

教科書教材には、価値を見つめ直すための要素が散りばめられている。その要素こそが、道徳の学習を進めていくための、「問い」につながる。では、どんなものでも「問い」として取り上げていいのかというと、そうではない。視点をもつことが必要である。なぜなら、立てる問いが拡散してしまうと、価値に対する考えも拡散してしまい、価値を深めていくことが困難になるからである。

そこで、以下の三つの視点を提示する。

1 どういうこと？（意味）	2 なぜ？（理由）	3 でも～じゃない？（反例）
----------------	------------	-----------------

この三つの視点で教材を読み、湧き出た自分自身の「問い」を全体で共有する。さらに、それぞれが立てた「問い」に対する自分の考えを伝え合う時間を設定することで、登場人物への共感、他者の考え方への共感をすることができると思う。

(2) 立場思考

子どもたちが立てた「問い」について話し合う過程で、「仮想場面」を提示する。「仮想場面」とは、日常で実際に起こりそうな場面のことである。道徳的価値について多面的に考えるために、現在の価値観を表出した後で、子どもの生活場面に即した「もしも」につながる場면을提示する。また、その中で、「自分だったらどうするだろう？」「別の人の立場だったら？」と立場を変えて考えることを意識する。そうすることで、この時間に学んできたことと、これまでの自分の生活経験を結び付け、より「自分事」として価値に対しての考えを深めることができる。また、一人の人物だけでなく、複数の立場の人物について考えることによって、様々な立場や考えに共感できるようにする。

(3) 3行日記

本時を行う前までの自分もっている価値に対する考え、本時で気付いた大切なことや考えたこと、未来の自分へ伝えたいこと、これからの自分自身の生き方をノートに記す。多様な見方・考え方を働かせる上で重要になるのは、自分のことを理解することである。なぜなら、他者の考え方や価値観に新たに気付くためには、自分自身が何を考え、何を感じているのかを把握することが大切だからである。自分の感じたことや考えたことを書き表し、自分の感情や思考と向き合い、見つめ直すことで、変容した自分に気付くことができる。

そこで、3行日記では、以下のように書くと有効であると考えられる。

1 行目 価値に対する自分の考え「これまで」
2 行目 本時で気付いたこと、思ったこと
3 行目 価値に対する自分の生き方「これから」

自分自身の気付きや感情を書き表すことで、これからの生き方につながるものを毎回の授業で積み重ねていく。